

多々良沼・城沼魚類採捕調査総括表

令和元年6月2日

		多々良沼			城沼		
		1950	2015~2018	増減	1950	2016~2018	増減
在来種	生息数	22	11	-11	23	11	+1 -13
	減った魚	11種 シナイモツゴ、キンブナ、タナゴ、ヤリタナゴ、ゼニタナゴ、シマドジョウ、ギバチ、ヌマチチブ、ワカサギ、ウグイ、ホトケドジョウ			13種 シナイモツゴ、キンブナ、タナゴ、ヤリタナゴ、ゼニタナゴ、シマドジョウ、ギバチ、ヌマチチブ、カマツカ、ミヤコタナゴ、アカヒレタビラ、ボラ、ジュズカケハゼ		
	増えた魚	なし			ニゴイ		
移入種	生息数	4	8	+4	4	6	+3 -1
	減った魚	なし			ビワヒガイ		
	増えた魚	ワタカ、ツチフキ、スゴモロコ、ハス			ワタカ、ツチフキ、スゴモロコ		
外来種	生息数	2	6	+4	2	6	+4
	減った魚	なし			なし		
	増えた魚	オオクチバス、ブルーギル、コウライギギ、ヨコシマドンコ			オオクチバス、ブルーギル、コウライギギ、コクチバス		

- ※1 今回の調査で、両沼の魚類相に関する基礎データが得られた。両沼における今後の自然再生や魚類の復活増殖などに役立つと思われる。
- ※2 在来種のうち1950年に見られて、今回調査で見られなかった種は、両沼とも半数に達している。
- ※3 今回調査で確認された外来種のうちオオクチバス、コクチバス、ブルーギル、コウライギギ、ヨコシマドンコの5種はすべて特定外来魚種である。(今後慎重な対応が必要)
- ※4 上述のとおり、両沼とも在来種が減少する一方、モツゴ(スジエビ)の生息数が突出して多くなっており、環境条件(水質汚濁、岸部の構造及び植生変化、外来魚・カワウなどの食害、人による採捕・乱獲等)の変化が多様な生物(魚類)の生息を制限しているものと考えられる。
- ※5 今回の調査で全ての生息魚種が採捕されているとは言えず、今後の補足調査が必要である。